



ホトケノザ (仏の座) の名前は、どうしてついたの

ホトケノザの名前はコオニタビラコ

ホトケノザというと、春の七草を思い出しますね。ところが、「どんな植物かな」と、植物図鑑を調べると、シソによく似た植物の写真と、「春の七草のホトケノザは、ちがう植物です」という説明が出てきます。

タビラコともよばれた

春の七草のホトケノザは、今のよび名は、コオニタビラコです。ちょっと前までは、タビラコ (田平子) とよばれていました。けれど、ムラサキ科という植物のグループの、キュウリグサが、タビラコとよばれていることから、区別するために、今は、コオニタビラコとよばれています。

葉っぱの様子が、名前になった

コオニタビラコは、早春の寒いころは、葉を四方に出して、地面に張りついています。この張りついた葉っぱの感じが、仏さまのすわっている台に似ていることから、ホトケノザという名前がつけました。この若い、やわらかい葉をつんで、七草がゆにするのです。

コオニタビラコは、4～5月ごろ、10センチメートルぐらいの背たけのくきの先に、小さい黄色の花をつけます。くきなどを切ると、白い汁が出ます。(監修・中山 周平)



早春のホトケノザ
(コオニタビラコ)

